

アメリカの「未来の対日戦争の準備」

アメリカの参戦については、私はつぎのように言おう。人々は、アメリカには民主主義があり、そこにはホワイト・ハウスがあるということを引き合いにだしている。だが、奴隷制がたおれたのは半世紀まえのことであった。奴隷解放戦争は 1865 年におわった。そして、それ以来、そこでは億万長者が成長した。彼らは、その金融でアメリカ全体をにぎりしめており、メキシコの圧殺を準備しており、また不可避免的に、太平洋の分割をめぐる日本と戦争するようになるだろう。この戦争は、すでに幾十年ものあいた準備されている。あらゆる文献が、そのことをものがたっている。そこで、アメリカの参戦の真の目的は、未来の対日戦争の準備である。とはいえ、アメリカの人民は、やはりかなり大きな自由をもっているのです。彼らが、なにか侵略的な目的のための、たとえば日本との闘いのための強制的な兵役義務や軍隊の創設をあまじく受けいれるとは、ちょっと考えられない。アメリカ人にはヨーロッパの実例で、これがどういうことになるか、わかっている。そこで、アメリカの資本家にとっては、弱小民族の権利をまもる闘いという崇高な理想のかけにかくれて、強大な常備軍を創設する口実をえるために、この戦争に介入することが必要になったのである。 第 24 卷 P444 『戦争と革命』 1917年5月14日(27日)の講演

崇高な理想に騙されるな！